■研究テーマ：【学校、地域との連携活動】【人権教育】
「親子ふれあい講座」から見える親子のつながり、地域のつながり

■研修記録

１）助言者、司会者、記録者の紹介

〇助言者：勝野雅文（塩尻西部中）
〇司会者：飯森俊二（郡Ｐ常任）
〇記録者：加久保幸平（麻績小）、鳥海康（麻績小）、髙桑智子（郡Ｐ常任）
〇提案者：刈間伸一（麻績小）

２）参加者自己紹介

３）提案発表

〇内容

・「親子ふれあい講座」は、元々地元筑北中学校ＰＴＡでの活動が発端で、その活動内容に保護者の皆様から「小学校でもできないか？」との賛同があり、活動が発足
・希望の講座に親子揃って参加し、その活動から“楽しみ、学びあう”、また、地域の活動を体験することで新たな交流を深める体験にもつながっているところ
・各学校では、当校のようなＰＴＡが中心となった「親子ふれあい」の場を設けているか？などの事例紹介などをいただきたい

４）意見交換（参加者を２つのグループに分け、意見交換）

【広丘小】

・各学年で、親子レク（ドッヂボール）を実施している。
・また、ＰＴＡ主催により、和菓子づくり、泳ぎ方、フラワーアレンジメント、スクラップ・ブッキング、将棋の活動を行っているが、（参加申込みが）夏休み期間のであることや、申込みが多く、担当する人の負担になっている。

【桔梗小】

・親子レクの内容は学年により異なっており、クラス対抗による球技や“子ども×子ども”、”大人×大人”による綱引きを実施
・活動の具体は、ＰＴＡ学級、学年部で決めている

【塩尻東小】
・（ＰＴＡが主体となっての活動は）あまりないが、地域の活動（畑や田んぼでの耕作体験等）に親子で参加している。

【宗賀小】
・親子レクやスポーツ系の活動を行っている（ドッヂボール、お菓子づくり、ゲームなど）
・運動会のプログラムである“遊技（ダンス）”に地域の方も参加頂いている

【塩尻西部中】
・授業参観後、運動系の親子レクを実施している
・内容はＰＴＡで立案しており、今年度はバスケットボールを実施
・地域とのふれあいとして、“ふれあい運動会”に（地域の方を）集るほか、各学年から１人づつ“リレーの選手”を選出

【丘中】
・活動はあまりない。
・部活動の“壮行会”に親が参加できるようになった。
・伝統行事として“薬草採集”があり、夏休みに採取し（夏休み明けに）親子で学校に持参している。

【両小野中】
・清掃、資源物回収作業など
・小学校では親子レクがあった（地域の方の協力による米づくり体験）
・小中一体で行事（音楽会）実施の意見もあったが、実際に行うのは難しいと判断

【朝日小】
・村の“お祭り”にＰＴＡとして協力する（ヤマメのつかみ取りの“いけす”準備）などは行うが、ＰＴＡ主体で何かを行うということはない

【坂井小】
・夏に“親子じゃんけん”や“綱引き大会”秋には“ふれあい講座”、“料理教室“を実施。やり方的には麻績小と同じ

【片丘小】
・ＰＴＡによる活動はないが、学校主催で授業参観後の親子レクを実施
・また、秋には公民館活動（クラブデー、一芸披露、親子での太鼓演奏）に参加

【筑北中】
・ＰＴＡ活動として“親子合唱”（自由参加）を実施しているほか、地域活動として“ふれあい講座”として、昨年度は“松本山雅のサッカー観戦”を実施

【塩尻西部中】
・授業参観後の親子レクの他、地域の“お祭り”で各地区の催し（太鼓、花笠音頭）があり、それに参加

【聖南中】
・各学年で親子レクを実施しているほか、生徒会での清掃活動（どっこい清掃）、親子でゲームを企画し実施している。
・また、子ども達による地域貢献活動を実施している。

【麻績小】
・子どもの年齢（１年生から６年生）に幅があり“嗜好”も異なるので、小学校全体でのイベントとしては企画しづらい。また、生徒数が少ない中で、学校全体で“何かをする”ことが難しくなってきており、今は（学校、ＰＴＡ活動の）過渡期では？と感じる。

５）討議

（司会）活動していくのも大変でしょう。

（麻績小）実施後のアンケートでは“やってよかった”という意見もあり、普段できないことが体験できるメリットもあるのかとも思う一方、兄弟で“やりたいこと”が違う事実もある。
また、事前準備も大変で、将来、“もう（活動を）やめればどうか？”との意見が出るのではと危惧している。

（司会）（対象を）大きくすると大変であれば、（学年毎など）少人数単位で企画すればいくらか楽にはなるのでしょうか？

（麻績小）

・準備は（各講座ごとに設けた）部会単位で行っている。

・各講座の人数均等化のため、“参加人数制限”を設けているが、“きょうだい”間で参加希望講座が異なると（片方に）親が同伴できないこと、また、人数制限の影響で“きょうだい揃って同じ講座に参加できない”なら、“行事そのものに参加しない“などの問題が毎年でているのが実情。

（司会）（企画や準備を）自分がやる立場だと“大変”と感じるが、活動としては継続していくべきことと考える。企画や準備の負担を極力少なくするにはどうすればよいでしょうか？

（両小野）（地域活動の）講師の選定はどうしているのか？

（麻績小）保護者と（講師対象との）つながりのほか、先生が（橋渡しに）協力頂けることもある。

（つながりのある人が）役員の場合は素早く動けるが、特に“初めて”役員をする人は“やり方”が分からないので、（調整ごとが）プレッシャーになってしまうのかもしれない。

（両小野中）ボランティアと地域をつなぐ“コーディネーター”がいるので、活用すれば負担は減るのでは？

（朝日小）児童数も少ない中、家庭事情も多様ななか、ＰＴＡや学校（クラス）主催の活動が難しいので、村の活動に協力していくとの動きになっていく。

（麻績小）アンケート結果の中には“今後（の活動継続）は考えもの”という意見もあり、毎年“やる、やらない”の議論からスタートしているのが実態。

６）まとめ（助言者より）

・年度毎に（開催する）講座は変えているのか？
・（講座で）作った作品はどうしているのか？
・保護者の参加率と、参加した子どもの感想は？
・開催にあたり、どんな負担があるのか？その具体
・１００％の賛成を得ることは不可能だが、反対理由の分析も必要

※各校毎、様々な課題があると思うが、“普段できないことが体験できる”、“地域や親子でふれあうことができる”、これが意義だと思う。

■感想

たくさんの意見交換がありよかったと思います。
児童が少ない学校では、色々な工夫をしながら地域、親子のつながりを深めている事を知れてよかったと思います。
　今回の討議で全ての課題が解決された訳ではありませんが、“親子や地域とのつながり活動”を継続していければと思いました。

＜郡Ｐ常任　髙　桑＞

－　以　上　－